

がんを防ごう

ゲノム医療 新たな検査の意義は

■ 道がんセンター 札幌で市民講座

がん患者が持つがんの発生や増殖に関わる160の遺伝子の変化を一度に調べ、個々の患者に最適な治療薬の情報を探す「網羅的がん遺伝子検査」を今月から始めた北海道がんセンター（札幌）は、「がんとゲノム医療」をテーマにした市民向け講演会を1日、札幌市内で開いた。

ゲノムは「遺伝情報の全体」を指す。このうち、



北海道がんセンター主催の「がんとゲノム医療」に関する講演会。市民ら約250人が耳を傾けた

さまざまな遺伝子の異常が積み重なり、がんが発症することが近年の研究で分かってきた。既に遺伝子の異常を標的とする治療薬が使われるなど、ゲノム医療は身近になりつつある。

同センターで検査を担当する西原広史・がんゲノム医療センター長は「たくさんの遺伝子を一度に調べ、自分のがんの個性を知り、最もよい治療法を提示する。がんは臓器別に分類されているが、いずれ遺伝子ごとに分類される」と新たな検査の意義などを話した。

一方、検査は保険外診療で同センターでは約66万円かかることや、検査を受けた患者で治療薬の情報が得られるのは約7割にとどまっている現状も説明。「（見つかった薬で保険が使えない）自費診療の薬による治療は高額になる可能性がある」などと課題も示した。司会を務めた同センターの加藤秀則副院長は「（新しい検査の）灯を消すことなく、保険診療になるよう目指したい」と述べた。